



農林振興公社 設立から半年 池田怜社長に聞く

昨年8月、庄原市の一体的な農林業振興を目指すと、市全額出資の㈱庄原市農林振興公社を設立しました。

この新会社は、農作業や草刈りの受委託など(財)庄原市農林業公社などから承継予定の業務に加え、農林産物の販売経路拡大、広島市内での野菜直販事業など、新たな農家支援に取り組んでいます。

設立から半年が経過し、農林産物の販売状況を社長の池田怜さんに伺いました。



新商品を紹介する池田社長

どれくらい供給できるか、どんなPRしていきたいか、思います。

また、農産物や加工食品などのインターネット販売も考えています。すでに、インターネットで買える物ができるホームページを作成していますので、商品の供給体制が整いしだい、開設したいと思っています。

— 今後の目標は。 —

目標は農業所得を上げること。これは農家に限ったことではありません。山を持っていれば山にあるものを、料理が得意であれば加工食品を商品として販売し、どんどん収入につなげていきたいと思えます。

農家所得を上げると、それがほとんど地域へ還元されていきます。農業自立振興プロジェクトの目標でもある、農業による定住社会の復活を目指して取り組んでいますので、農林産物の販売などについて、お気軽にご相談ください。

— 新たな販路の開拓は。 —

商品開発と同時に販路を開拓しなければお金にはなりません。珍しい山菜や野菜、加工食品を持って、広島市内などの料亭やレストランを営業に回り、実際に試食してもらい感想を聞いています。

料理人は、市場にないもの、特徴のあるもの、流通していない野菜や山菜にはとても興味を持ちます。また、プロの料理人は、これとこれを組み合わせたら美味しいと即座に感じ取ります。どのような食材がいつ

— 「ヒバゴン生鮮便江波店」が人気ですね。 —

農業所得を上げるための方法の一つが、今まで捨てられていた自家用野菜やこれまで販売して



試食で新商品をPR

こなかった山菜などを商品に換えていくことです。これらの商品や市場流通経路のない一部の農産物は産直市などが受け皿となってきました。

しかし、各地域の産直市に農産物を出したくても、産直市の規模が決まっていって出せなかったり、同種の野菜が重なって売れ残りがあつたり、生産者が販売員として交代で出ないといけないなど、課題を抱えた地域もあります。

その中で、昨年4月広島市内にオープンした「ヒバゴン生鮮便江波店」は、JA、産直市の次にくる第3の出荷場所として期待が持てます。現在、西城・庄原地域の生産者を中心に出荷され、週4日朝市のスタイルで販売しています。店舗の近くの

— 商品開発を進めていますね。 —

消費者を中心に安くて新鮮なイメージを受けて、数時間で売り切れてしまうほどの人気です。これをフル稼働できるように、市内全域から誰でも出荷できる場所として、これから流通などの仕組みを考えていきます。

加工食品の開発を業務用として相談されることが多くあります。麺と醤油で野菜を漬けた「やたら漬け」、古漬けを炊いたもの、にんにく味噌、卵かけご飯用の醤油など、これまでに約15品目の商品を開発しました。

基本的にはこれまで商品化されずに眠っていた素材にひと工夫する方向で、取り組んで

■ 問い合わせ

㈱庄原市農林振興公社

☎0824-7215090